2018年4月21日（土）　インド大使館　ウパニシャッド（第22回）

**≪ヤマの「火の儀式」の教えとナチケーターの正確な繰り返し（復習）≫**

前回は第１５節までを説明しました。ヤマはナチケーターの２番目の願い（天国に行く方法を知りたい）をかなえるため、「火の儀式」を教えました。ヤマは、祭壇の作り方（例えば、祭壇の広さ・高さ、レンガの種類・数）や儀式の火の作り方など全部を教えました。ナチケーターは教えられたことを正しく繰り返しました。それでヤマはとても喜びました。

ヤマは自分の生徒（ナチケーター）にたくさんのことを教え、生徒は教えられたことを全部正しく繰り返しましたからとても喜びました。皆さんは前回のウパニシャッドの講話の内容を繰り返すことができますか（笑い）。できたら私は喜びますができないと悲しみます。さて、ヤマは喜んでナチケーターに言いました。それが次の第１６節です。

**≪カタ・ウパニシャッドPart 1 – Chapter 1 第１６節≫**

*tamabravīt prīyamāṇo mahātmā varaṁ tavehādya dadāmi bhūyaḥ*；

*タマブラヴィーㇳ　プリーヤマーノ　マハートマー　ヴァラㇺ　タヴェーハーッディヤ　ダダーミ　ブーヤㇵ*；

*tavaiva nāmnā bhavitā’yamagniḥ sṛṅkāṁ cemāmanekarūpāṁ gṛhāṇa*.

*タヴァイヴァ　ナームナー　バヴィターヤマグニㇶ　スリンカーㇺ　チェーマーマネーカルーパーㇺ　グリハーナ*

［「カタ・ウパニシャッド カタカナ読み表示と日本語解説」のサンスクリット語のカタカナ表記をマハーラージが最初に少しずつ唱えて皆がそれに続き唱え、最後にマハーラージと皆が一緒に唱える。以下の第１７節についても同様です。］

節の語を分けます（節の中で２語以上が一緒になって１語になっている部分があるため）。「tamabravīt prīyamāṇo mahātmā varaṁ tavehādya dadāmi bhūyaḥ」は、「tam abravīt prīyamāṇaḥ mahā-ātmā varaṁ tava iha adya dadāmi bhūyaḥ（タㇺ　アブラヴィート　プリーヤマーナㇵ　マハーアートマー　ヴァラㇺ　タヴァ　イーㇵ　アッディヤ　ダダーミ　ブーヤㇵ）」になります。

次の「tavaiva nāmnā bhavitā’yamagniḥ sṛṅkāṁ cemāmanekarūpāṁ gṛhāṇa」は、「tava eva nāmnā bhavitā ayam agniḥ sṛṅkāṁ ca imam anekarūpām gṛhāṇa（タヴァ　エーヴァ　ナームナー　バヴィター アヤㇺ　アグニㇶ　スリンカーㇺ　チャ　イマㇺ　アネーカルーパーㇺ　グリハーナ）」になります。

言葉の意味です。マハーアートマーを文字通りに訳すと「偉大な魂」になりますが、魂に小さい、偉大は関係ないですね。アートマーはここでは個人を意味しています。それで、マハーアートマー（マハートマー）の意味は、「理想的な人」、「偉大な人」になります。ここで言う偉大な方とはヤマのことです。

プリーヤマーナㇵは「喜んで」です。タㇺは「その人に」で、その人とはナチケーターです。アブラヴィートは「言いました」、イーㇵは「この」です。アッディヤには２つの意味があります。「今日」と「今」です。タヴァは「あなたに」、ブーヤㇵは「また」（again、another）、ヴァラㇺが「恵み」、「願い」（boon）、ダダーミが「あげます」です。

アヤㇺは「この」、アグニㇶは「火」で、火の儀式のことです。タヴァ　エーヴァ　ナームナーは「あなたの名前で」です。バヴィターは「知られるようになります」です。

アネーカルーパーㇺは「いろいろな形がある」、スリンカーㇺは「首飾り、ネックレス」、グリハーナは「もらってください」です。

**＜ヤマが与えた２つの恵み＞**

全体的な意味は「ヤマはとても喜んでナチケーターにもう一つ恵みをあなたに与えますと言いました」です。その恵みは２つあります。一つは、天国に行くための「火の儀式」が今からナチケーターの名前で知られるようになるということです。今までこの儀式には特別な名前はありませんでしたから。

ヤマの恵みの一つによって、そのヤッギャー（儀式）は「ナチケーター・アグニ」と呼ばれるようになります。アグニは普通は儀式の火のことですが儀式（自体）も表します。そして「ナチケーター・アグニ」と言えば皆さんが何の儀式かわかるようになります。

その恵みはとても良いでしょう。例えば、有名な人の名前の付いた道がありませんか。日本ではそんなにないかもしれないですが、インドではとても普通です。例えば、スワーミー・ヴィヴェーカーナンダの名前が大きい道の名に付いています。

それから、インドには、歴史的な人物、例えば、元首相のジャワハルラール・ネール、インディラ・ガンディーや、マハートマー・ガンディーらの名前の道、場所、飛行場があります。例えば、インディラ・ガンディー・エアポート（デリー）、ネータージー・スバース・チャンドラ・ボース・エアポート（コルカタ）があります。日本では羽田エアポートと成田エアポートがありますが人名ではありませんね。

アメリカにもリンカーン・プレイスなど、人名の付く場所がいろいろあります。シカゴのミシガン・アヴェニューの一部はスワミー・ヴィヴェーカーナンダ・ウェイと呼ばれています。そのように、そのヤッギャーは今から「ナチケーター・ヤッギャー」または「ナチケーター・アグニ」の名で知られるようになるとヤマは言いました。

それから、もう一つの恵みはとても素晴らしい首飾り（スリンカーㇺ）のプレゼントです。普通の首飾りではありません。普通の首飾りは金や銀のネックレスですね。ヤマは特別な方ですから首飾りも特別です。ヤマは、ダイヤ、サファイア、パール（真珠）などがちりばめられたとても素晴らしいネックレスをナチケーターにプレゼントしました。

ナチケーターは特別な生徒です。頭が良く、とても神聖な人で、先生への尊敬もありました。そしてヤマの言うことを集中して聴くことができました。ヤマは一回だけしか言いませんでしたが、ナチケーターはそれを全部正しく繰り返しました。それで、ヤマはとても喜んで、「私はあなたにプレゼントします」と言いました。

今お話したように、そのプレゼントの一つは天国に行くためのヤッギャーに今からナチケーターの名前が付けられて呼ばれるようになるということです。そしてもう一つのプレゼントがスリンカーㇺです。スリンカーㇺには２つの意味があり、一つの意味は首飾りです。もう一つの意味はヤッギャーの知識のいろいろな結果です。

ヤッギャーの結果によって天国に行くだけではなく他のいろいろな結果が出る可能性があります。首飾りの宝石にいろいろなものがあるように、儀式の結果もいろいろで、天国に行くだけではなく他の良い結果も出ます。次はとてもとても大事な節ですね。第１７節です。

**≪カタ・ウパニシャッドPart 1 – Chapter 1 第１７節≫**

*triṇāciketastribhiretya sandhiṁ trikarmakṛt tarati janmamṛtyū;*

*トゥリナーチケータス　トゥリビレーティヤ　サンディㇺ　トゥリカルマクリッㇳ　タラティ　ジャンマムリッティュー；*

*brahmajajñaṁ devamīḍyaṁ viditvā nicāyyemāṁ śāntimatyantameti.*

*ブラㇷマジャッギャㇺ　デーヴァミーッディヤㇺ　ヴィディッㇳヴァー　ニチャーイエーマーㇺ　シャーンティマッティヤンタメーティ*

節の語を分けます。

「triṇāciketastribhiretya sandhiṁ trikarmakṛt tarati janmamṛtyū」は「tri-ṇāciketaḥ tribhiḥ etya sandhiṁ tri-karma-kṛt tarati janma-mṛtyū」（トゥリナーチケータㇵ　トゥリビㇶ　エッティヤ　サンディㇺ　トゥリカルマクリッㇳ　タラティ　ジャンマムリッティュー）になります。

「brahmajajñaṁ devamīḍyaṁ viditvā nicāyyemāṁ śāntimatyantameti」は「brahma-ja-jñam devam īḍyam viditvā nicāyya imām śāntim atyantam eti」（ブラㇷマジャギャㇺ　デーヴァㇺ　イーディヤㇺ　ヴィディッㇳヴァー　ニチャーイァ　イマーㇺ　シャーンティㇺ　アッティヤンタㇺ　エーティ）になります。

それでは言葉の意味です。トゥリビㇶは「３つのものから」、「３人から」（学ぶ、勉強する）の意味ですが後で詳しく説明します。サンディㇺは「近くに行って（あるいは近くに来て）接する」、エッティヤは「それをもらって」です。

トゥリナーチケータㇵは「ナチケーター・ヤッギャーを３回行う」です。ナチケーター・ヤッギャーは、ヤマによって名付けられた儀式（第１６節）でしたね。ヤマは「今からこのヤッギャーはナチケーターの名前で呼ばれる」と言いました。ヤマはそう言ってすぐに自分もその名称（ナチケーター・ヤッギャー）を使っています。

ところで、トゥリナーチケータㇵという言葉にはナチケーターの語だけがありアグニまたはヤッギャーの語は出ていません。しかし、その言葉にはその意味が含まれています。それゆえ、トゥリナーチケータㇵは、ナチケーター・アグニ、ナチケーター・ヤッギャーを３回行うことを意味します。

トゥリカルマクリッㇳは「３つのことを実践します」です。その３つのものが何かは後で説明します。それからジャンマムリッティューですが、ジャンマが「生まれる」、ムリッティューが「死ぬ」です。タラティは「渡る（超越する）」という意味です。

全体的な意味は、「３つのもの（あるいは３人）から勉強して（学んで）、ナチケーター・ヤッギャーを３回行い、３つのことを実践しますと、生と死を渡ります（超越します）」です。生死を渡るとは、繰り返し生まれませんし死にません、すなわち、悟ります、その意味です。

**＜トゥリビㇶの意味（１）：お母さん、お父さん、先生（グル）＞**

今から詳しいことを説明します。最初はトゥリビㇶです。トゥリビㇶは「３つのものから」、「３つの存在から」あるいは「３人から」（勉強する、学ぶ）の意味です。その３つのものから勉強します。それでは、その３つとは具体的には何でしょうか。その３つはいろいろな意味を持っています。

一つの意味は、お母さん、お父さん、そして先生の３人です。最初に教えるのはお母さんです。お母さんはいつまで教えますか。それに関してカーストのことをお話ししますとインドには４つのカーストがありますね。ブラーミン、クシャトリア、ヴァイシャ、スードラです。

ブラーミンは聖典の勉強をします。教えます。自分もたくさん神様のことを考えます。儀式も行います。クシャトリアは戦士のカーストです。戦います。悪い人から良い人を守り、国を心配します。ヴァイシャは畑の仕事やビジネスをします。

この３つのカーストには「ウパナヤナ」というシステムがあります。「ウパナヤナ」とは、例えば、５歳や７歳になったときに行われるセレモニー、儀式のことです。このセレモニーを受けないとその人は礼拝することができません。いろいろな儀式を行うためには最初にこのセレモニーを受けることが必要です。

そのウパナヤナ・セレモニーのとき、儀式の火を使っていろいろな約束の誓いをし、それから生活もいろいろ抑制（コントロール）します。そのセレモニーのときからガーヤットリー・マントラ（ブール、ブヴァ・・）を唱えます。

そのウパナヤナ・セレモニーを終えますと、それを終えたことを示すシンボルがあります。糸で作ったを掛けることが一つのシンボルです。それを掛けているのを見ればウパナヤナ・セレモニーを終えたことがわかります。もちろんそのとき頭の髪を全部切ります。

そのときは３日間くらい外出しません。シャツを使いません。靴も使いません。自分でベジタリアンの食事を作って食べます。ケースバイケースでその３日間に（他にも）いろいろあります。それからは礼拝をすることができるようになります。シュリー・ラーマクリシュナにもウパナヤナ・セレモニーの物語がありましたね。

そのセレモニーまではお母さんが子供に教えます。でも、そこまでで終わらずにお母さんが教え続ける可能性はあります。そのセレモニーの後は先生（グル）の場所に行くまでお父さんが教えます。先生は昔はいつも聖者でした。

昔は、生徒が先生から教わるやり方は生徒が学校に通うのではなく、先生（個人）の場所に行ってそこに寝泊まりして勉強しました。そのやり方はグルクラ（Gurukula）・システムと呼ばれます。ヨーロッパでもそうでしたし、日本でも昔はそうでした。大きな建物（学校）に通って勉強するようになったのはずっと後になってからです。それは２０世紀のヨーロッパで始まりました。

グルクラ・システムでは勉強するためにそこに泊まらないといけません。家から通うことはできないです。家が近くにあっても生徒は絶対にそこに住んで勉強することが必要でした。英語では、レジデンシャル（residential）・システムと言います。パートリー（partly）・システム（例えば、２０％が宿舎に住んでいて他は自分の家から来る）ではありません。グルクラ・システムの場合は１００％宿舎（dormitory）住まいです。

そのグルの場所に行く前、それもケースバイケースですが、１２歳、１３歳まで、あるいは１０歳までお父さんが教えます。最初はお母さんが教え、次はお父さんが教え、最終的にグル、先生が教えます。その３人から勉強します。しかし、それは厳密なものではなく、各段階が過ぎたらお母さん、お父さんが教えることができなくなるということではありません。

さて、お母さん、お父さん、先生から何を勉強するのでしょうか。お母さん、お父さんは、普通の学問（文学や科学など）を少し教えますけれども、一番大事な教えは人生についてのことです。お母さん、お父さんは人生のことを教えていました。そして先生の場所に行って、ヴェーダ、ヴェーダーンタだけではなく、論理学などいろいろな学問を勉強しました。

３人に共通するのは「人生」のことを教えることです。それは絶対です。人生の意味は何ですか。人生の目的は何ですか。なぜ生きていますか。何が価値のあることですか。道徳的なものは何ですか。どのように心や感覚のコントロールをすることができますか。どのようにしてよい家住者になりますか。家住者の義務は何ですか。それも教えています。

現代のことを考えてみましょう。今も３つの先生がいます。現代の３つの先生とは、一つはインターネット、もう一つはテレビ、そして新聞と雑誌です。それらによってインフォメーションは爆発的（インフォメーション・エクスプロージョン）と言ってもよいくらいにあふれています。それが普通になりましたが現代の問題は何ですか。

現代に欠けているのは知性（ウィズダム）です。知性とは何ですか。何が本当に大事なこと、正しいことなのか、どのように賢くなるのか、どのように偉大な人になるのか、それらは全て知性です。識別のこと、道徳的なこと、霊的なこと、みな知性です。

知性がないことが現代の一番の問題です。お母さんもお父さんも普通の先生も知性を教えていないです。お母さん、お父さんはどうして教えていないのでしょうか。なぜなら、自分が知らないからです。自分が勉強しようという興味もないし時間もないので知りません。そして教えていないです。私のこの話はただの想像に過ぎませんか。それとも正しいですか。

最近その状態ではないですか。時間がない、興味はない、知らない、だから教えていないです。教えていないですから後で問題が起こったとき困っています。結婚した後でたくさん問題が出ますが、どのように解決すればよいのかわからないです。知性（ウィズダム）がないですから。これは本当に問題です。インフォメーションはいっぱいですがウィズダムがなし。

経済的な取り組みだけでその状態は直らないですね。アベノミクス、２０２０オリンピック、それもいいです。ですが、ウィズダム、知性、それがもっと基礎的なことではないでしょうか。それがないと現代の心の病気などのたくさんの問題に対処することができません。ここで皆さん誤解しないでください。経済政策を批判しているわけではありません。皆必要です。

ですが、**人生については人生から勉強しないといけないです**（we can learn about life from life.）。人生のことは本からはあまり勉強できないです。人生から人生の勉強をしないといけないです。それのために、お母さん、お父さん、先生の役割が大事です。サンスクリット語でとても素晴らしい言葉があります。

**Pravartito dīpa iva pradipāt**

**プラヴァールティト・ディーパ・イーヴァ・プラディパート**

ディーパはオイルランプ（油のランプ）のことです。どのようにして新しいオイルランプに火を付けますか。火の付いている別のオイルランプに触れさせることによって新しいランプに火を付けることができます。

ところで、ここにオイルランプの写真があったとします。きれいなランプの写真です。あなたは自分のオイルランプに火を付けたいです。そのときその写真のランプに自分のランプを触れさせますか。それで火が付きますか（笑い）。

もし自分のオイルランプに火を付けたいなら、別のランプの火に触れさせてください。同じように、**人生のことを勉強したいなら人生から勉強してください**。インターネットからではありません。昔のシステムはとてもとても大事なことを言っています。

昔のシステムでは、お母さん、お父さんが人生のことを教えていますね。子供にとってそれは印象深いものとなります。それはなぜでしょうか。一つは愛の関係があるからです。もう一つはお母さん、お父さん自身が実践しているからです（子供はそれを見ています）。その結果、子供たちはお母さん、お父さんからいろいろ勉強することができました。

その後で先生の場所に行きました。先生は生徒からお金をもらって教えるのではありません。先生は、社会とお金持ちの方、例えば、王様によってサポートされていました。そして、先生と生徒の間には愛と尊敬の関係がありました。

新しいランプに火を付けるには別の燃えているランプの火に触れさせることによってそれができるのと同じように、人生のことを勉強したいなら人生から勉強してください。それが大事です。別のウパニシャッド［ブリハドアーラニヤカ・ウパニシャッド］の中にも、同じアイデアがあります。

**ヤター・マートゥリマン・ピートゥリマン・アーチャーリャワン・ドゥルワン**

マートゥリマンが「お母さんから」、ピートゥリマンが「お父さんから」、アーチャーリャワンが「先生から」です。この３人（お母さん、お父さん、先生）は子供の勉強のためにとても大事です。このような形に戻さないといけないですね。

**＜トゥリビㇶの意味（２）：ヴェーダ、スムリティ、シャストラッギャ＞**

トリビㇶの一つの意味（１）はお母さん（マータ）、お父さん（ピータ）、先生（アーチャーリャ）でしたが、別の意味（２）もあります。その３つのものとは「ヴェーダ」、「スムリティ」、「シャストラッギャ」です。（１）、（２）は以下の通りです。

（１）**①Mata（マータ）　②Pita（ピータ）　③Āchārya（アーチャーリャ）**

（２）①**Vedas（ヴェーダ）　②Smriti（スムリティ）　③Shastrajna（シャストラッギャ）**

「ヴェーダ」はウパニシャッドを含んでいろいろあります。「ヴェーダ」の中のほとんどは「真理」です。「スムリティ」は「真理をどのように実践するか」が書かれている聖典です。例えば、霊的になりたいなら何を食べ、何を飲むか、食べ方、飲み方はどうか、義務は何か、どのように義務を果たすか、断食のこと、抑制のことなど実践的なことが詳しく書かれています。

「ヴェーダ」も「スムリティ」も聖典ですけれど、「ヴェーダ」は真理だけです。ウパニシャッドは「シュルティ」で、例えば、真理です。「スムリティ」はどのように真理を実践するかが書かれた聖典です。一つの考えでバガヴァッド・ギーターは「スムリティ」です。

バガヴァッド・ギーターには、「真理をどのように実践するか」が入っています。サットワ的な食事、ラジャス的な食事、タマス的な食事のことがバガヴァッド・ギーターにありますが、それらのことは真理ではないでしょ。

ですが、真理を実践するためには、どのような食事が大事か、どのように仕事をした方が良いか、何が良い種類のダーナ（寄付）か、などを知ることが必要です。また、バガヴァッド・ギーターの中にはサットワ、ラジャス、タマスの話がたくさん出てきますがそれらは実践の関係のことですね。もちろん、真理のことも絶対にありますが、それが「スムリティ」です。

そして、もう一つが「シャストラッギャ」です。シャストラッギャのシャストラ（Shastra）が「聖典」、ギャ（jna）が「知っている人、勉強した人」で、シャストラッギャは「聖典（のこと）を知っている方」という意味になります。聖典のことをたくさん勉強した方です。勉強するにはインフォメーションを頭で覚えるだけでなく理解する知性も必要です。

**＜トゥリビㇶの意味（３）：プラッティャクシャ、アヌマーナ、シャーヴダ＞**

このように、トリビㇶには「ヴェーダ」、「スムリティ」、「シャストラッギャ」の意味もありますが、トリビㇶにはさらに別の意味（解釈）もあります。それは次の３つです。

（３）**①Pratyaksha（プラッティャクシャ）　②Anumāna（アヌマーナ）　③Sāvda（シャーヴダ）**

一つは「プラッティャクシャ」ですが、その意味は「自分の直接的な経験」から勉強することです。見聞した自分の経験、それが「プラッティャクシャ」です。「アヌマーナ」は「推測」（inference）です。「推測」について「山の上に煙が見えればそこには火がある」という有名な例えがあります。

山の上に煙が見えますが火は見えません。しかし、火がなければ煙はできませんから絶対に向うに火がある（に違いない）と考えます。これが「推測」です。自分で直接に火を見ていないですけれど推測すると絶対に火があります。そのようにして学ぶことがあります。

このように、勉強の仕方の一つは「プラッティャクシャ」（直接的）であり、もう一つは「アヌマーナ」（間接的）です。そしてもう一つが「シャーヴダ」です。前後関係でそれは「ヴェーダ」です。プラッティャクシャ、アヌマーナとシャーヴダ、それらが勉強の源です。以上のように、トリビㇶの「３つのもの」にはいろいろな意味があります。

**＜母・父と子供との相互関係＞**

良い子供に育てるには、お母さん、お父さん自身の苦行（タパシャ）、良いカルマが必要です。逆に、良いお母さん、お父さんのところに生まれるにはその子供の前世の良いカルマが必要です。それがないと良いお母さん、お父さんの場所に生まれません。相互的です（笑い）。

スワーミー・ヴィヴェーカーナンダは自分のお母さんに言っていました、「お母さん、あなたはたくさん苦行がありましたから、あなたのところにヴィヴェーカーナンダが子供として生まれました」（笑い）、「また来世に同じヴィヴェーカーナンダの子供が欲しかったらたくさん苦行してください」と。

インドでそのタパシャのアイデアは普通です。棚からぼたもちはできないです（笑い）。努力しないといけないです。武道館にたくさんの人が入っていますが、インド大使館の講話にそれほど大勢の人は参加していません。それは興味がないですから。しかし、参加しているあなたは本当は幸運です。なぜなら、神様はあなたの中にその「やる気」を作りましたから。それを信じてください。これは本当は普通のことではないです。

どうしてあなたはここで勉強しているのでしょうか。神様のおかげで、神様の恵みであなたは来ています。私はそのことを信じています。そして今、神様はそこまであなたの準備をしました。その後は自分で努力しないといけないですね。そこまで神様はあなたを助けましたから。

神様が準備してくださった後はシリアス（真面目）になって勉強してください。それが努力ですね。それが一つのタパシャです。そうしないと良いものはできません。一時的なものはできますけれども、本当に価値のあるもの、良いもの、永遠なものはできません。

これまでトリビㇶの説明をしてきましたが、３つのアイデアの中で私（マハーラージ）が一番好きなのは最初の解釈です。お母さん（マーター）、お父さん（ピーター）、先生（アーチャーリャ）、それが一番大事です。

**＜トゥリカルマクリッㇳ～３つの行い＞**

「トリビㇶ」、それから「トゥリナーチケータㇵ」です。先ほど言いましたね、ナチケーター・ヤッギャー、ナチケーター・アグニを３回行います。そして、もう一つが「トゥリカルマクリッㇳ」です。３つのカルマ（３つの行い）をします。

３つのカルマの一つは「儀式を行う」ことです。もう一つは「寄付をする」ことです。そしてもう一つが「聖典の勉強をする」ことです。これが「トゥリカルマクリッㇳ」です。

「寄付」にはチャリティーの形態もあります。チャリティーの訳語は何ですか（慈善など）。インドでも、アメリカ、ヨーロッパでもチャリティーがありますが、日本の伝統にはあまりないのかもしれません。聖典の中には寄付のことがたくさん出ています。「寄付をする」ことは一つの大事な行いです。

**＜１７節の後半＞**

ブラㇷマジャッギャㇺのブラㇷマジャ（brahma-ja）は「ブラフマンから出ているもの（ヒラニヤガルバ）」、ギャ（jña）は「知っている、理解している」です。ブラㇷマジャッギャㇺは「ブラフマンから出ているものを良く知っている人」、例えば、「ブラフマンの儀式のことを良く知っている人」です。

デーヴァㇺ　イーディヤㇺは語順が変わりイーディヤㇺ　デーヴァㇺになります。イーディヤㇺは形容詞で、デーヴァㇺが名詞です。イーディヤㇺは「とても尊敬する」です。デーヴァㇺは「神」ですがもう一つの意味が「偉大な存在」です。そのとても尊敬する偉大な存在が「ヴィラート」（Virāt）です。

前回、「ヒラニヤガルバ」のことを説明しました。最初が「ブラフマン」、ブラフマンの後はプラクリティですがそれは現われていません。プラクリティの後の状態がヒラニヤガルバです。ヒラニヤガルバから最初に現れたのが「ヴィラート」です。

或る観点でヒラニヤガルバとヴィラートとは相違しませんが、哲学的に考えますと、ヴィラートはヒラニヤガルバから出ています。ヒラニヤガルバとブラフマー［創造の神］とは同じ意味です。そして、ヒラニヤガルバから「ヴィラート」が現れました。

「ヴィラート」は粗大的な生き物です。人間はみな粗大的な生き物ですが、人間を含めすべての粗大的な生き物を一緒にして一つに合わせたものを想像してください。我々は個々のものをイメージしますが、そうしないで、宇宙のすべての粗大的な生き物を全部合わせて（一つに）イメージすることができたら、それが「ヴィラート」です。

「ヴィラート」はヒラニヤガルから現れました。ヒラニヤガルはプラクリティ、マーヤーから出ています。マーヤーはブラフマンから出ています。その順番です。（プラクリティとマーヤーについてはバガヴァッド・ギーター2017-02-04-大使館講話参照）。

ニチャーイァは「自分を～と同一視（identification）する」です。求道者が自分をヴィラートと同一視します。ここで最初からの順番を考えてください。

最初は、母さん、お父さん、先生から勉強します。それからナチケーターのヤッギャーを３回します。その後に３つの行い、すなわち、儀式、寄付、それからヴェーダの勉強をします。その後に、ブラフマンから出ているものを良く知り、そして最後に、ヴィラートを自分と同一視します。では、これらのプロセスの結果は何でしょうか。

**＜輪廻を止める、最高の平安を得る＞**

その結果は、「タラティ　ジャンマムリッティュー」（前半）と、「シャーンティㇺ　アッティヤンタㇺ　エーティ」（後半）の２つです。

「タラティ　ジャンマムリッティュー」は「生死を渡る」です。タラティは「渡る」という意味ですが、もう一つの意味は「止める」です。世俗的な海を渡ります。再生（何回も生まれ、何回も死ぬ）を止めます。もう再生しません。

それから、「シャーンティㇺ　アッティヤンタㇺ　エーティ」は語順が変わり「アッティヤンタㇺ　シャーンティㇺ　エーティ」になります。アッティヤンタㇺは「最高の」、シャーンティㇺは「平安」、エーティは「得る」で、「最高の平安を得る」です。

このように、２つの結果が出ます。一つの結果は「輪廻（rebirth）を止める」ことです。もう一つの結果が「最高の平安を得る」ことです。前者は否定的な表現ですが、後者は肯定的な表現です。この２つの結果にはどのような関係がありますか。

どうして何回も生まれているのでしょうか。その原因（源）は「願い」です。良い願い、悪い願いがあり、悪い願いを「欲望」と言っています。霊的に進むためには、勉強したい、浄らかになりたいなど、良い願いが必要です。しかし、「解脱」のためには、悪い願いはもちろんのこと、最終的に良い願いも超越しないといけません。

例えば、悪い願いのシンボルは「ラジャス」、「タマス」で、良い願いのシンボルは「サットワ」です。しかし、サットワも「鎖」ではないですか。サットワもアートマンの一つの鎖です。ラジャス、タマスも鎖、サットワも鎖、みな棄てないといけないですね、もし我々の目的が「解脱」であれば。

例えば、鉄の鎖だったら大変ですが、金の鎖だったら喜びますか（笑い）。もしあなたをこの机に金の鎖で縛ります。それでいいですか。もちろん皆さんそれは好きではないです。鎖は鉄、銀、金の何でも構いません。結果は何ですか。自由がなくなります。そしてサットワはアートマンの金の鎖です。

それで言っています。良い願いも（最終的に）超越しないといけません。タラティ、その言葉は良い言葉です。その意味は「渡る」です。渡りませんとジャンマムリッティュー、輪廻はストップしません。

輪廻がストップしないと何が問題ですか。輪廻がストップしなくてもいいじゃないですか。何回も生まれ、何回も死にますが、たくさんご馳走を食べます、たくさん音楽を聴きます、親戚もたくさん、孫と一緒に遊ぶ、いいじゃないですか。

しかし、皆さんの経験で人生は１００％が楽しみですか。苦しみと楽しみの割合はどれくらいでしょうか。人生のどれくらいが楽しみでどれくらいが苦しみでした。皆さんそれぞれのご経験でどうですか。

ケースバイケースですが、２０歳くらいのときは例えば、９０％が楽しみ。たくさんの友達、たくさんの遊び。それがだんだん進みますと少しずつ変化していき、楽しみが８０％、７０％、６０％、５０％、４０％、・・・とだんだん減っていきます。

齢を取った後は楽しむことはないみたいです。９０％が苦しみ、大変ばっかり（笑い）。そして生まれますとまた同じ経験をすることになりませんか。その感じで「識別」することが大事です。

その感じで「識別」しないと「解脱」のやる気は出ないです。我々の普通の考えは何ですか。大変のことはもちろん誰でも好きではない。ですけれども大変はずっと続きません。大変が終わって普通の状態に戻りますと、皆さんは「解脱」のやる気が出ていません。

大変なことがありますけれども、そのことをすぐに忘れています。皆さんは希望で生きています。１０％の楽しみの希望で皆さん生きています。１０％の楽しみの希望で我々は９０％の大変のことをがんばって生きています。１０％がなかったら皆さんどうしますか。１００％大変だったら誰でも生きたくないですよ。どうですか。しかし１０％あります。それがマハーマーヤーのネットです。

それで一つの物語があります。我々は危険なことがたくさんありますけれど気にしないで１０％の楽しみの希望で生きています（笑い）。その物語は次のような内容です。

「或る人が森に入りました。森に入ると突然トラに追いかけられました。それで木に登りました。その木の下に井戸がありました。その井戸の中にたくさんの毒蛇がいました。木の一番上には悪魔が見えました。」その状態を想像してください。

「森の中ではトラが待っています。木の下の井戸には毒蛇、木の一番上が悪魔、その状態に入りました。」考えてみてください。ずっとその状態を続けることはできませんね。もし逃げないと上から悪魔、逃げるとトラ、井戸の中に入ろうとしても毒蛇。

「すると突然上から、点、点、点・・・とハチミツの滴が落ちてきました。そのとき、そのハチミツを味わって危険のことを全部忘れてしまいました。また味わいたい。」そんなに危険な状態にいるのにそのことを忘れて、点、点、点・・・と落ちてくるハチミツを味わいたい（笑い）。その状態です。

その物語を聞いたことがありますか。「識別」しますと我々の状態はそれと同じ状態です。マハーマーヤーで全部忘れています。忘れているのは森にトラ、そして下は毒蛇、上が悪魔。ですが、全部忘れて点、点、点・・・のハチミツを味わうために生きている。

お釈迦様の物語かヒンドゥー教の物語かどちらかは忘れましたが聖典の中にこの物語があります。この物語は「識別」のやる気のために作られました。皆さんは、自分の状態がそうであることをイメージして識別してください。識別すれば「解脱のやる気」が出ます。そうしないとできないです。

そうしないとタラティ　ジャンマムリッティュー（生死を渡る）、そのやる気は出ません。そのやる気が出ないとアッティヤンタㇺ　シャーンティㇺ　エーティ（最高の平安を得る）はできません。輪廻をストップしないと最高の平安は得られません。

シャーンティは「平安」、「安定した幸せ」ですね。シャーンティはいつできます。怖い状態がある間、大変のこと、心配のこと、恐怖のことがある間、幸せできますか。できませんね。恐怖、心配、苦しみ、悲しみ、その状態がある間、「安定した幸せ」はできないです。

最初はいろいろ識別して「解脱のやる気」が出ます。しかし「解脱のやる気」と「解脱」は一緒ではないです。「解脱のやる気」が出るのが最初の段階です。次の段階は、お母さん、お父さん、先生から勉強して、ナチケーター・アグニを３回して、３つの行いである、儀式、寄付、聖典の勉強をして、それからブラフマン、ヴィラートと自分を同一視します。

その結果、輪廻を止めます。それと一緒に最高の平安を得ます。「輪廻を止める」のと「最高の平安を得る」のに順番はないです。段階はないです。その２つの結果は一緒に出ます。

例えば、聖典にとても面白い例えがあります。あなたには病気があるとします。病気になるといろいろそのしるしがありますね。例えば、熱が出るなどです。しかし、それだけではなく、あなたは弱くなります。

あなたは病気を治すために良い薬を飲み食事を取ります。そうしますとどうですか。病気も治ります。それとともにあなたには力が戻ります。それらは別々ではなく一緒です。病気も治ります。力も戻ります。

その順番はないです。それと同じです。輪廻を止めますと、そのとき一緒に、最高の平安も得ます。今日はここまでです。

［付記（Ｑ＆Ａ）］

１．ヴィラートのイメージについて

　ヴィラートをイメージするのは少し難しいです。哲学のことがたくさんありますから。ヴィラートはヒラニヤガルバから出ました。ヒラニヤガルバまではあまり粗大的な形のイメージは出ていません。最初の粗大的な形のイメージはヴィラートから始まります。

　粗大的というのは、例えば、見ることができる、触ることができる、そのイメージですね。粗大的なものは認識することができます。或るときは目で、或るときは耳で、或るときは触覚で。そのイメージを考えてください。認識することができる存在です。

けれども、個別的と宇宙的があります。例えば、個々の「木」と、木の全部を合わせた「森」と、その両方をイメージすることができますね。一つは木だけ、それもイメージできます。もう一つは森、それもイメージできます。

森にはとてもたくさんの木があります。そのことを考えてください。「個々の人」のイメージと全部を合わせた「人間」のイメージ。「木」と「森」。それを比べてください。その感じで、ヴィラートのイメージが少しわかると思います。

２．ヴィラートと自分（私）との同一視について

　例えば、ブラフマンと私、アートマンと私との同一視（アイデンティフィケーション）のことがあります。その一つのイメージがヴィラートと私との同一視です。最終的な目的はブラフマンと私との同一視ですが、ブラフマンは形も性質もないですからブラフマンは絶対にわからないです。

　そのために、最初は私をヴィラートと同一視することです。少しできますね。その感じで進みます。しかし、本当は難しいです。哲学のことがいろいろありますから。何回も何回も勉強して、聴いて、瞑想して、それからできます。普通は言葉だけ入っていますけれどイメージが出ないです。

　しかし、止めないで進んでください。今日初めてこの講話に参加された方もいますが、最初はわからないです。ですけれども止めないでください。現在の参加者の中で一番長く続けている方は３０年くらいになりますね。身体の問題で来られなくなったという方もいます。けれども、神様のお陰で続けています。

　続けることが大事です。続けないと、あまりアイデアがわからないです。そして続けるだけではなく、自分も瞑想のとき深く考えます。そして識別すると自分がもっともっと浄らかになります。普通の学問ではないですから、それらのことが条件です。

３．ヴィラートをイメージする具体的な方法について

　瞑想のときにイメージしてください。今は頭だけの理解かもしれません。本当のイメージが出るようにするには、瞑想の対象をそれだけに「集中して深く」考えてください。瞑想は深く考えることですね。

　ヴィラートと私との同一、そのことだけを深く考えますとイメージが出ます。ですが、それで１００％ではありません。完璧のためには他の条件もあります。もっと浄らかにならないといけないです。もう少し実践しないといけないです。それもあります。

　イメージのために集中して考える。一回聴くだけではなく、一回勉強するだけではなく、集中して考えますと出ます。

　そして、自分の魂と自分との同一視は（ヴィラートと自分との同一視と）同じことです。一つ悟りの助言があります。マクロレベルでブラフマン、ヴィラートと私を同一視するのは、ミクロレベルで自分の内なる魂と自分を同一視するのと同じことです。

　自分の魂は我々の中にいます。ヴィラートはちょっと外のイメージが出ますけれども、魂は自分の中にいます。ですが、自分を自分の魂と同一視するのは難しいではないですか。それは（ヴィラートと自分とを同一視するのと）同じように自分を自分の魂と同一視するには集中しないとそのイメージは出ないです。

　それだけではなく、それと一緒に識別してください。私は身体ではない、心ではない、感覚ではない。「識別しながら自分の魂を集中して考える」、それが方法です。

以上